

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
<p>本専攻博士課程では、本学の定める修業年限以上在学し、次のような能力・資質を備えた上で、32単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査および最終試験に合格した者に対し、研究科委員会の意見を聴いて、学長が課程修了を認定します。課程修了が認定、またはそれと同等の研究業績をあげていることが認められる者には、博士（薬学）の学位を授与します。</p>		<p>本専攻博士課程ではディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような教育課程の編成・実施の方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p>	<p>本専攻博士課程は「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な次に掲げる知識や技能、意欲を備えた人を求めます。</p>
1. 知識・理解	1-1	<p>「薬物治療学特論群」の科目では、個別化医療、薬物治療、化学療法、感染症治療、薬効・毒性評価に関する高度な臨床的知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。</p>	<p>個別化医療、薬物治療、化学療法、感染症治療、薬効・毒性評価、レギュラトリーサイエンス、コミュニティーファーマシー、漢方処方など、臨床的課題を対象とする研究領域・分野を中心にして高度で専門的な研究を志し、先端医療、チーム医療に貢献できる薬剤師研究者（ファーマシスト・サイエンティスト）や大学等の研究機関の研究者として、医療の発展に寄与・貢献したいと希望する者で、優れた資質を持ち、学問に対して意欲にあふれた者を受け入れます。</p>
	1-2	<p>「実践医療薬学特論群」の科目では、レギュラトリーサイエンス、健康予防栄養学、コミュニティーファーマシー、医療保険制度、漢方処方に関する高度な知識を学び、その臨床的な意義と必要性を理解することで、臨床での課題解決能力・研究能力の基盤を作ることができる。</p>	
	1-3	<p>「薬物治療学特論群」と「実践医療薬学特論群」の講義内容を統合的に関連づけることで、幅広い臨床的課題について多角的な視野から理解し活動することができる。</p>	
2. 技能・表現	2-1	<p>「講義」を通して、学問的視野が広がり、課題解決能力や研究実践の技能を向上させる素地ができている。</p>	
	2-2	<p>「演習」を通じて、臨床現場を想定した課題解決能力や研究実践のための技能を有している。</p>	
	2-3	<p>「論文作成研究」は、「講義」・「演習」と組み合わせることで、相乗的な研究能力の向上を図ることができる。</p>	
3. 思考・判断	3-1	<p>「講義」を通じて幅広い臨床分野において、新たな問題・課題を見出すことができる。</p>	
	3-2	<p>「演習」を通じて幅広い臨床分野において、状況に応じた課題の解決への具体的方策を立案できる。</p>	
4. 態度・志向性	4-1	<p>自ら医療現場等で想定される課題を見出し、積極的に問題解決を図る態度が涵養されている。</p>	
	4-2	<p>グローバルな視野に立ち、医療現場等で指導的役割を果たす自立した教育研究者としての素地ができている。</p>	
		<p>1. 主に臨床的課題を対象とする薬学研究を通して、高度な専門性や優れた研究能力を養い、将来、先端医療、個別化医療、チーム医療等において、高い研究能力を発揮する薬剤師（ファーマシスト・サイエンティスト）として、医療現場等で指導的役割を果たす自立した教育研究者を育成するために、「講義」、「演習」および「論文作成研究」により編成される教育課程から教育を行います。</p> <p>2. 「講義」は、薬剤師の専門的な職能の向上に繋がる、「薬物治療学特論群」および「実践医療薬学特論群」から選択し、高度な臨床的知識を定着させつつ、臨床的課題解決能力・研究能力を醸成できる6年制薬学教育の博士課程に相応しい講義内容とします。</p> <p>3. 「演習」は、低学年時に基盤となる研究手技やデータ解析力を向上させる科目を履修し、高学年時に問題解決能力、ディスカッション能力を醸成できるように、「論文作成研究」の進展に合わせて、それらの内容と開講時期を工夫します。</p> <p>4. 特に授業科目の中で主体となる、「論文作成研究」の指導体制は、主指導教員は領域の本専攻の専門教員が担当し、副指導教員は学内外の専門研究者が担当することで、論文の質の向上と実験データのエビデンスの客観的評価が可能な体制をとり、指導教員は随時、適切な指導を行います。</p> <p>教育課程全般を通じて、「講義」、「演習」および「論文作成研究」を有機的に関連づけることや、学生・教員間のディスカッションを十分に行うという教育方法により、学生の理解を高めます。</p> <p>また、教育課程の評価については修了年次に提出する博士論文をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>	